

(資料4)

# 由利本莊市 地域公共交通網形成計画

## 事業評価・検証(案)

由利本莊市地域公共交通活性化再生協議会

## 概要

### <施策1> 地域拠点間のアクセス強化

右に記載の「目的・必要性」に基づいた個別の事業を実施し、課題の解決を図ることで目標の達成を目指します。

#### ◎事業名と実際に取り組んだ内容など

##### 【事業1】 中心市街地と地域拠点間の幹線路線の整備

- ・本荘地域に広域拠点を、7つの地域に地域拠点を設置
- ・7地域の拠点から地域内カバーするコミュニティバスを運行

##### 【事業2】 広域バスの運行機能強化

- ・現行の広域路線・・・(秋田市)急行秋田線 (横手市)急行横手線 (にかほ市)象潟線
- ・貨客混載など生産性向上に向けた取り組みの検討を行った。

##### 【事業3】 運行ダイヤの見直しによる乗り継ぎ利便性の向上

- ・**鉄道**→路線バス→コミュニティバスの順で連携を図りながら円滑な乗り継ぎに配慮しダイヤ調整を行っている。

(※参考) 事業実施により解決を図るべき課題

- (課題1) 潜在的な交通弱者への対応(事業1・2・3関係)
- (課題2) 交通空白地域の対応(事業1・2関係)
- (課題3) 地域ニーズに応じた運行形態の検討(事業1関係)
- (課題4) バス・鉄道間の乗り継ぎの利便性向上(事業3関係)
- (課題7) 広域連携軸の強化(事業2・3関係)



## 目的・必要性

本市の中心市街地である羽後本荘駅周辺と、各地域の拠点となる施設のアクセス性を強化することで、地域間移動を円滑にし、中心市街地と各地域とのアクセシビリティ(行きやすさ、乗りやすさ)向上を目指す。

## 定量的な目標・効果

	(現況)	(達成目標)
【指標1】 中心市街地ー地域拠点間の路線バスの平均運行本数	15本/日	15本/日
【指標2】 幹線路線の1日あたり平均輸送人数	15人/日	15人/日

## 実施状況、目標・効果の達成状況

路線バスとして、地域間(他市町村間)で3路線、広域拠点から地域拠点間で3路線、地域内6路線の計12路線を運行している。「指標1」では、路線の改廃に伴い、東由利地域方面への急行横手線(4)・東由利線(8)、大内地域への岩谷線で14と、目標を割り込んでいる。「指標2」では、幹線路線で15人を割り込んだ路線はなかった。

また、路線バスとコミュニティバスの乗り継ぎ利便性を考慮し、互いに発着時間などについて柔軟な対応が図られるよう、それぞれの事業者に対して協力を求めている。

## 今後の課題・改善点

路線バスの維持確保のため「生産性向上」の取り組みを進め、新規利用者の掘り起こしや収支改善を図る。

また、乗り継ぎに関して改善できる余地がないか点検・検討を行い、**鉄道**→路線バス→コミュニティバスの順を基本としてダイヤの調整を図りたい。

## 概要

### <施策2> 地域拠点を核としたフィーダー交通の導入

右に記載の「目的・必要性」に基づいた個別の事業を実施し、課題の解決を図ることで目標の達成を目指します。

#### ◎事業名と実際に取り組んだ内容など

##### 【事業4】地域拠点を核とした、交通空白地域をカバーするフィーダー運行路線の導入

- 生活交通確保維持改善計画（地域内フィーダー系統確保維持事業）を平成28年度から策定し認定を受けている。対象路線は市内循環バス、道川北線、西目線、中田代線、羽広－軽井沢線。平成29年9月まで実証運行された子吉線、八塩線、法内線も平成30年度計画から掲載されるよう進めている。
- 由利地域の鮎川（西沢）に子吉線（東地区路線）を延伸して交通空白地域の解消が図られた。

##### 【事業5】住民参加型の公共交通サービスの検討

- 本荘地域子吉地区をはじめとする7地域で33回の説明会や対話会などを開催。また、アンケートも2地域で2回実施した。
- 路線バスの運行について、要望のあった住民と共に直接現地を廻るなどして共通理解を図りながら検討をした。

（※参考）事業実施により解決を図るべき課題

- （課題1）潜在的な交通弱者への対応（事業4・5関係）
- （課題2）交通空白地域の対応（事業4・5関係）
- （課題3）地域ニーズに応じた運行形態の検討（事業4・5関係）
- （課題8）公共交通機関の魅力向上（事業5関係）



## 目的・必要性

地域拠点と地域郊外を結ぶフィーダー運行路線を導入し、公共交通事業の持続可能性に配慮しながら、地域郊外に点在する交通空白地域の解消に向けて取り組む。

## 定量的な目標・効果

	（現況）	（達成目標）
【指標3】交通空白地域が解消された地域数	0地域	8地域
【指標4】地域ニーズに応じた公共交通サービスの提供方法等に関わる住民参加型対話会の開催地域数	1地域	8地域

## 実施状況、目標・効果の達成状況

交通空白地域が完全に解消されるという地域はないものの、フィーダー交通の導入やコミュニティバスの路線延伸などにより、計画策定時と比較しカバー率の改善が図られた地域が5地域ある（本荘・岩城・由利・大内・東由利・鳥海）。

コミュニティバスの導入に向けての意見交換や利用促進についての検討の場など、これまで市内7地域で82回実施しているほか、アンケートも6地域で14回実施している。

## 今後の課題・改善点

本市は広範な面積を有し、交通空白地域が点在している。そのため、現状のコミュニティバスを中心とした施策では交通空白地域を完全に解消することは困難であると考えられる。地域の実情やニーズ、また持続可能性にも配慮し、デマンドタクシーの導入や町内会、NPO等による運行も視野に入れ、柔軟に交通空白地域への対応を図る。

また、福祉医療や商工、教育分野など、これまで以上に地域住民や関係機関などが、ともに考え、連携を図り、公共交通に対する理解を深めることで、利便性の向上と利用者の増加に努める。



## 概要

### <施策3> 地域拠点・交通結節点の整備促進

右に記載の「目的・必要性」に基づいた個別の事業を実施し、課題の解決を図ることで目標の達成を目指します。

#### ◎事業名と実際に取り組んだ内容など

##### 【事業6】中心市街地および地域拠点における乗り継ぎ施設、待合所の整備

- ・由利地区（鮎川）に延伸した「子吉線」沿線において、町内会の協力を得て既存のスクールバス待合所を活用できた。

##### 【事業7】地域拠点および交通結節点のバリアフリー化

- ・羽後本荘駅の東西自由通路整備事業に伴う駅舎の改築に合わせて対応予定（H32年度完成予定）

##### 【事業8】乗り継ぎ支援、運行情報等の情報提供設備の整備

- ・秋田～本荘間の幹線系統において、バスの位置情報をアプリで確認できるサービスを提供中
- ・バス停留所時刻表示などへQRコードを盛り込み、そこから市の公共交通情報サイトへ接続することで、各種公共交通機関の情報を収集できる仕組みを構築中（本荘地域循環バスなどの一部で対応中）

##### 【事業9】公共交通の魅力向上・利用促進策の実施

- ・H29.10月に「バスの乗り方教室・良い子の落書きバス」を実施（由利小学校）
- ・道の駅東由利とタイアップしたバスパックを企画し利用促進を図った。
- ・SNS（主に市facebook）にトピックを掲載し、周知と「マイバス意識」の醸成に努めた。

（※参考）事業実施により解決を図るべき課題

- （課題1）潜在的な交通弱者への対応（事業6・7・8関係）
- （課題2）交通空白地域の対応（事業6関係）
- （課題4）バス・鉄道間の乗り継ぎの利便性向上（事業6・7・8関係）
- （課題5）バス路線・運行情報の充実（事業6・8・9関係）
- （課題6）交通結節点等における待合環境の整備（事業6・8・9関係）
- （課題7）広域連携軸の強化（事業6・7・8関係）
- （課題8）公共交通機関の魅力向上（事業8・9関係）



## 目的・必要性

各地域の乗り継ぎ拠点となる施設のバリアフリー化や交通結節点の整備等に取り組むことで、乗り継ぎの利便性の向上や待合環境の改善に向けて取り組む。

## 定量的な目標・効果

	(現況)	(達成目標)
【指標5】屋根・ベンチ整備済み待合所の普及率	39.0%	41.6%
【指標6】冬季におけるバス待合所周辺の除雪ボランティア登録数	1団体	3団体

## 実施状況、目標・効果の達成状況

【指標5】の屋根・ベンチ整備済み待合所の普及率は子吉線の鮎川延伸に伴い、既存のスクールバス待合所を活用できたことから達成目標を1.3%上回った。

【指標6】の除雪ボランティア登録数は策定時と変わらず1団体であるが、バス停付近の町内会にも作業協力をしていただけるよう依頼するなど広がりを持たせられるよう取り組んでいる。また、路線バスやコミバスのバス停では、自主的に清掃や美化、除雪を行っている個人や町内会もある。

## 今後の課題・改善点

先進地などの取り組みを参考に、分かりやすい形での公共交通情報を発信をこころがけ利便性の向上に配慮していくほか、バスへのラッピングや乗り方教室を実施することで、公共交通に対する理解を深めつつ、魅力の向上を図る。

また、鉄道・バス・タクシー・行政など事業、団体にかかわらず、一体となり利用促進に努め、既存の路線等を最大限に利活用できるよう進めていきたい。